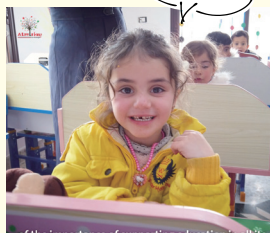


2021年度 活動のハイライト

シリア

どこからも支援が届いていない
国内避難民が集まる地域で
新たに幼稚園をスタート

かつてシリアは教育レベルが高く大学まで学費が無料。ほぼ全ての子ども達が学校に行くことができました。しかし長引く戦争で、シリア国内の半分の子ども達が教育を受けることができていません。シリア北西部に、基礎教育と心のケアの場所として、新たに幼稚園と通園バスを届けました。



幼稚園ができて
とっても
うれしい!

トルコ

難民として生きるトルコで
必要な学力をつける補習校

トルコで難民として生活するシリアの子ども達は無料でトルコの学校に通えます。しかし、母国語であるアラビア語ではないトルコ語での授業についていけず中退する子ども達も。そこでトルコの学校に戻るためのトルコ語の補習と、いつかシリアに戻るよう母国語のアラビア語を学ぶ授業を行なっています。



課題ではなく魅力を伝える
多種多様なイベントを実施

日本

シリアだけではなく中東の魅力や、文化・教育・平和など様々なテーマについて、専門家から聞く「PoSドラマサ」、生き方や旅にフォーカスを当てた等身大のお話を聴く「木曜サマル」というオンラインイベントを定期的に実施しています。シリアと直接つなぐ、オンラインツアーや交流イベントもいよいよ始まりました!



シリアと直接
つなぐイベントも
始まりました

任意団体から
NPO法人に
なりました!

継続的な支援ができるよう
NPO法人化・組織強化を

シリアの戦争が始まり11年が経ちました。戦闘や空爆が減り、報道も減る中でシリア関連の支援も減少し続けています。しかし経済制裁の影響でインフレ、燃料不足により生活は今までで一番厳しいとさえ言われています。

NPO法人化、組織基盤強化を実施し、ニュースの多寡に左右されず、継続的に支援が続けられる体制作りを進めていきます。



シリアの未来を一緒に作る仲間の皆様



Special Supporters

【Special Supporters】
新原 桂子様、Komatsubara Yuko様、小笠原 功雄様・正恵様、株式会社Honkii様、大原 和司様、
岩崎 千佳様、渡辺 香里様、株式会社アレックスの石原様、とことこあーす株式会社様、MAKIKO CREATION様
【クラウドファンディング リターンご協力】
フェアトレードのセレクトショップ Love&sense、Tribalogy様
【ボランティア(社会人、学生)】
向井 雪奈さん、小林 ますみさん、吉田 明子さん、児島 千晶さん、窪川 佐紀さん、西原 早苗さん、
藤山 美津さん、濱田 朱莉さん、Yoshin Wangさん、渡辺 純平さん、清水 拓人さん、清田 里菜さん、
安田 真優さん、若見 優衣南さん、酒見 伸輔さん



中野 貴行



武田 祐輔



金澤 鮎香



鈴木 のどか



鈴木 慶樹



石井 貴幸



中野 秀敏



佐々木 颯



伊藤 広



Shiho



越川 綾乃

SNSでPiece of Syriaとつながる



【Facebook】 piece.of.syria/
【Instagram】 @piece.of.syria/
【Twitter】 @piece_of_syria
【Youtube】 PieceofSyria

サポーター限定!

サポーター限定
Facebook
コミュニティも
始めました

Check!!



NPO法人 Piece of Syria

Web: <https://piece-of-syria.org>
Mail: contact@piece-of-syria.org

〒558-0033 大阪市住吉区清水丘1-15-23
Piece of Syria事務所



活動報告書
2021年4月
~22年3月

شكراً

ありがとう。

あなたのおかげで、
私は今、学校に行くことができます。

勉強することができ
ともだちと遊ぶ
ことができて
とっても
うれしいです!



現地パートナーNGO代表からのメッセージ

質にもこだわった教育を届け、シリアに平和を

ご支援をいただいた日本の皆様、本当にありがとうございます。
私の夢について伝えさせてください。それは「より多くの幼稚園をシリア国内に設立・運営していくこと」です。

戦争から11年が経つ中で、私たちはとても多くの問題に直面しており、特に教育に関しては重要かつ緊急的な課題を抱えています。高校・大学で学ぶ学生と接すると、母国語のアラビア語がきちんと話せていないことに気付かれます。また教育を受ける機会を奪われ、読み書きができない子ども達も出てきています。言葉は文化にもつながるもので、これは看過できない問題です。

戦争により教育を奪われ、「失われた世代」となった子ども達がいる現状に対して、新しい世代を作っていく必要があります。その土台となるのが、基礎教育と心のケアを行なうことのできる幼稚園です。戦争を止め、平和を取り戻すために教育こそが重要だと考えています。

そのための支援を続けてくださっている、Piece of Syriaのご支援者の皆様には、本当に感謝しています。今まで2000人ものシリアの子ども達が皆様によって支えられてきました。

私たちは、ただ「受け入れる生徒数を増やす」のではなく、「教育の質」にこだわっていきたいと思っています。子ども達以上に、私たち大人も学び続ける必要があると考えています。その一つが、日本の戦後復興からの学びです。だからこそ、シリアの幼稚園に、日本の「桜」と名付けた幼稚園をつけました。心の平和を感じながら、未来を作る力を養っていく。そんな質の高い教育を届けていくため、これから皆さんと共に学び、成長していければと思っています。改めまして、本当にありがとうございます。

A Little Help is Enough 創設者・代表 Education Without Borders プロジェクトマネージャー Usama Ajjan

アレップ大学 英語学科卒業。在学中、日本語を学ぶ。
卒業後、小中高それぞれの学校で英語教師として働き、戦争開始後は教育支援団体[A Little Help is Enough]設立。
2013年よりトルコに避難し、シリア国内とトルコのシリア難民向けの教育支援NGO[Education Without Borders]の教育プロジェクトマネージャーを兼務。2019年、トルコ市民権を獲得。日本に行き、華道を学ぶのが夢。



Piece of Syria代表からのメッセージ

シリアの未来に寄り添っていきたい

ご支援いただいている皆様のおかげで、本報告書でお届けしたような成果を生み出すことができます。温かなご支援、いつも本当にありがとうございます。

2022年3月、シリアの戦争が始まって11年が経ちました。この11年の戦争で失われてしまったものは非常に大きいですが、「課題ではなく魅力を伝えたい」という理念のなか、シリアの人たちが願う「次の10年」への想いに耳を傾けることから始めています。「子ども達が教育を受けて、夢を叶えてほしい」「未来を抱くことは難しいな。でも、こうやって聞いてくれるから、未来について考えることができる機会になったよ」など様々な答えを教えてください。

僕たちは、そうしたシリアの人たちの想いが叶うような、ポジティブな未来と一緒に楽しみながら作っていきたくと願っています。

是非、これからも、未来を作る仲間となつて一緒に歩んでいければ幸いです。

Piece of Syria 創設者・代表理事 中野貴行

2008-10年、青年海外協力隊・村落開発普及員としてシリア北部アレップ県マンベジ郡で母子保健プロジェクトに参画。2015年より中東・欧州10カ国にて難民となったシリアの人たちや支援団体の人たち100人以上にて社会調査。最も支援が届きにくいシリア国内の教育支援を行なうため、2016年よりPiece of Syriaを立ち上げる。2020年よりJICAケニアで働く妻の随伴でナイロビ在住。



日本で「伝える」活動

課題ではなく魅力で伝えるイベント

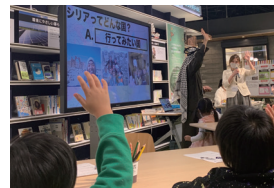
ゲストと共に、学び、気づき、考える。

平和とは何か？ 幸せとは何か？ そんな答えのない問いに、専門家を招いて一緒に考える場を作っているのが「マドラサ」、アラビア語で「学校」という意味のオンラインイベントです。現代アートや言葉から考えるシリアなど、文化面からシリアを感じる企画など、テーマは様々。ディスカッションを通じていっしょに考えていける機会を作っています。

毎週木曜日には、ゲストから生き方や旅にフォーカスを当てた等身大のお話と交流会の「木曜サマル」を定期開催。サマルは「日が暮れた後、夜更かしをして、友達と楽しく過ごす」という意味のアラビア語。ゲストと交流会の参加者の皆さんと、新しいつながりが生まれ、笑顔が生まれる時間です。

シリアとつなぐ交流授業・オンラインツアー

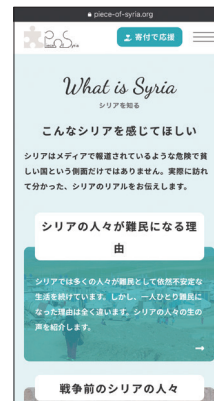
シリアと日本、それぞれの子ども達が「夢」の絵を描いて交流するイベントを大阪で実施しました。シリア国内とテレビ電話でつながって、シリアの家の中を見せられました。また、日本語が話せるシリア人・ツアーガイドと一緒に回る、シリアオンライン観光ツアーもスタート。ニュースで見る風景とは違う、今のシリアを体感し「まるで一緒に歩いてるみたいで感動した」「いつか行きたい!」と、今まで以上にシリアが身近になる企画が生まれています。



Webサイトのリニューアル

シリアを知る窓口に

「SocialShip2020」の助成を受けて、Webサイトを完全リニューアルしました。シリアについて知っていたくコンテンツを新たに準備したほか、更新が簡単になり、プロボノスタッフの声も発信しやすくなりました。



日本で「支える」活動

NPO法人化・組織強化の助成

パズルのピースのように力を合わせて

シリアで戦争が始まった2011年3月から11年が経ちました。幸いなことに数年前から空爆などの大きな衝突が減っています。その結果、ニュースにシリアが取り上げられることも減り、シリアへの支援活動・寄付も減っているのが現状です。しかしながら、物価高騰が加速しており、シリアの人たちの日常生活は今まで一番大変だという声もあります。また、戦争そのものが終わったとしても、支援が必要な状況は続くことが予想されます。

その状況対応するには、安定的に成長していける組織となる必要があります。そこで、2016年からプロジェクトのように活動していた任意団体から、NPO法人とすることを2020年に決め、2021年7月16日に設立に至りました。

私たちは、本業を持つプロボノスタッフや学生ボランティアで活動をしており、会議もイベントも全てオンラインで実施しています。新しい組織の形のため、手探りでやっていくことも多いですが、「ひとかけらをひとつなぎに。パズルのピースのように小さな力を合わせて、大きな力に」という私たちの団体名に込めた想いを体現するように、仲間も支援の規模も少しずつ大きくなっています。



2021年7月、対面とオンラインのハイブリッドで合宿を実施。Panasonic様から助成をいただき、組織診断から組織基盤強化のため、外部コンサルタントの方に入っていたいただきながら、組織の課題発見と解決のため動いています。



【新規助成】関西地域NGO助成プログラム(2021年12月～)

【継続助成】Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs(2022年1月～)

JAMMINコラボキャンペーン



京都発チャリティーファッション専門ブランド「JAMMIN」との期間限定キャンペーンを実施しました。私たちの想いを込めたデザインをしていただき、それをシャツ、パーカー、バッグなどのアイテムに。購入していただいくごとに700円の寄付になります。Yahoo!ニュースに取り上げていただくなど、今まで私たちのことを知らなかった方々にも活動について知っていただく機会にもなりました。



シリア伝統のダマスク柄にパズルのピースを組み合わせたデザインを作っていました。

インタビュー記事



シリア国内への教育支援

どこからも支援が届かない場所に教育を届ける

105人の子ども達に教育を(増員予定)

戦争による影響で、シリアでは地域が政治的に分断され、シリア北西部アレppoでは教育や交通機関などの公共サービスが不十分です。戦闘自体は落ち着いていますが、それゆえ避難民が集まり、学校が不足しています。加えて物価の高騰で生活費がどんどん上がっているため、私立の幼稚園があっても、経済的に行けない子ども達が少なくありません。



こうした状況を受けて、現地パートナーNGOと相談し、無料で通うことができる幼稚園の運営することを決めました。生徒は4〜6歳の105名。授業内容は、アラビア語(国語)・英語・算数、そしてアクティビティ・心理社会的ケアです。戦争の中で、心に傷を負ってしまった子ども達もいるので、幼稚園を安心できる場所だと感じてもらうことは、今後、子ども達が学校に通う習慣を身につける上でも大切です。



お絵描き、園芸、水泳などのアクティビティやカウンセリングを実施



無料で受けられる高い質の教育が地域でも評判になっています



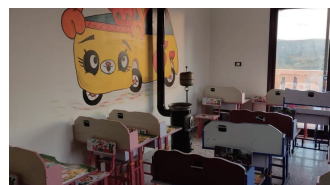
安心して通える通園用のバス

幼稚園のある場所は公共の交通機関がありません。皆様の支援で、通園バスを届けられたことで、安全にかつ無料で子ども達が幼稚園に通うことができています。



幼稚園に行きたくするための設備

幼稚園の教室の環境を整えることは、子ども達が幼稚園に行きたくするために大切です。シリアには四季があり、夏は暑くて冬は寒くなるので、扇風機や灯油ストーブを。そして電力が不安定なので電力太陽光パネルを。そしてもちろん、勉強机やホワイトボード、筆記用具や教科書なども準備しました。



先生にお給料を届ける価値

公共サービスのない地域では、先生の給与が届きません。それでも「子ども達は未来だから」と無給で先生として働く人もいますが、家族を養うために職を離れてしまうことも。安定的に給与を届けることは、「家族のご飯をどうしよう」ではなく「明日より良い教育にするにはどうしよう」と考えられるという教育の質の向上にもつながります。

結果、地域でも評判となって、入園希望者が殺到している状況です。午前に加えて、午後も授業を行なうことで、さらに多くの子ども達を受け入れられるよう準備を進めています。そして給与を届けることで地域経済にも貢献することができます。



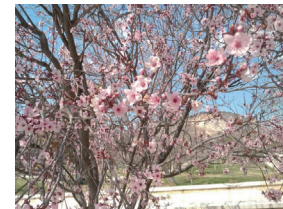
園長、5人の先生、ソーシャルワーカー、清掃員の8名の職員が働いています



平和を作るSAKURA幼稚園

シリアで始めた幼稚園は、日本の桜をイメージした「SAKURA幼稚園」という名前です。アレppo大学の日本センターで日本語を学んだことがある現地パートナーが名付けました。その理由をこう語ります。

「桜が学校に咲いている景色には平和を感じます。武器ではなく教育で平和を実現していくような幼稚園になってほしい。その想いから、平和を感じる「桜」を幼稚園の名前として考えました。幼稚園に桜の木も植えたいと思っています。第二次世界大戦の後、日本は教育を通じて平和を実現していたことを、桜を通じて生徒達に伝えていきたいと考えています」



シリアのダマスカスに咲いた桜(2022年)

先生からのメッセージ

子ども達の笑顔が増えました

実は生徒達は最初、幼稚園に行くのが好きではありませんでした。家で勉強もせず、何もしないことを望んでいたんです。特に最初の週は、両親から離れるのが悲しくて、生徒達は絶えず泣いていました。

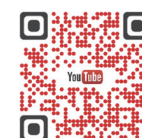
しかし、職員みんなで問題に対処するため、楽しい話をしたり、レクリエーション活動をしたりしながら、幼稚園を楽しんでもらえるように工夫を重ねました。そして今では、子ども達は幼稚園を愛し、勉強を楽しみ、帰らずにもっとここに居たいとさえ、思ってくれるようになりました。幼稚園に通う子ども達の表情が変化し、たくさんの笑顔を見せてくれるようになったことが本当に嬉しいです。皆様の支援に心から感謝しています。

SAKURA幼稚園 Hamida Thanaa先生



シリア事業・活動報告会 「平和を作る幼稚園をシリアに」

現地パートナーNGOの熱い想い、子ども達や先生からの感謝の声を是非、こちらの報告会動画からご視聴いただけますと幸いです！



トルコのシリア難民への教育支援

トルコの学校に戻るための補習校支援

●200人の子ども達に教育、7人の職員にお給料を

シリアの隣国トルコは、最もシリア人を受け入れています。戦争が始まった当初は、母国語のアラビア語で学べるシリア人学校があったのですが、戦争の長期化でトルコの方針が変更し、アラビア語の授業が禁止に。トルコ人と同じ学校で、トルコ語で学ぶことが義務付けられました。

家で話している母国語のアラビア語と異なるトルコ語での授業についていけなかったり、難民に対するイジメなどを理由に学校に通わせたくない親、通いたくない子ども達もいて、35%の就学年齢のシリアの子ども達が学校に行くことはできていません。また母国語のアラビア語の読み書きができないシリアの子ども達が増えています。



そこで、パートナーNGOである【Education Without Borders】と共に補習校を運営し、トルコの学校の授業についていくためのトルコ語・英語・算数を学ぶ補習と、地域の子ども達との交流の場を作っています。さらに、トルコ政府から認可を受けてアラビア語の授業も実施できており、いつかシリアに戻れるよう、言語や文化を学んでいます。



外に出て身体を動かす遠足なども実施



補習校の子ども達に夢を描いてもらって、日本の子ども達と交流も



先生からのメッセージ

補習校はシリアの子ども達が、トルコのコミュニティの中で打ち解けていくために大きな助けになっています。約200人の子ども達がトルコの公立の学校に戻ることができました。今年も新しく200人を受け入れ、授業を受けています。皆様のご支援、心より感謝申し上げます。

トルコ補習校 Bayan先生

トルコの学校に戻るために



●幼稚園・補習校のある場所



国内避難民が集まるイドリブ県・アレppo県の境目にSAKURA幼稚園、シリア国境近くでシリア人が多く住むガズィアンティップ県に補習校があります。

現地活動費

- シリア活動費: 32,215\$
月825\$: 職員給与 (8名)
10,315\$: 設備 (机、椅子、ストーブなど)
3,000\$: 家賃
9,000\$: バス (ドライバー、ガソリン込み)

- トルコ活動費: 13,200\$
月 700\$: 職員給与 (7名)
月 400\$: 水道光熱費、筆記用具

活動のための収入

- クラウドファンディング 329万円
(システム手数料を除く)
- マンスリー・単発のご支援 230万円
(システム手数料を除く)
- JAMMINチャリティー 35万円

2021年4月～2022年3月まで。NPO法人の決算月は10月のため、こちらは参考の数字となります。NPO法人としての決算報告はウェブサイトに掲載しています。

スタッフからのメッセージ『トルコ訪問記』

昨年秋よりPiece of Syriaの活動に参加しているプロボノスタッフのShiho。PoSでは、シリア・トルコ事業のプロジェクトマネジメントを担う。活動の一環として、2021年12月に現地パートナー訪問、トルコ事業補習校の視察を実施。



トルコで気丈に生き抜く
私のもう一つの家族のために

はじめまして。
プロボノスタッフのShihoです。
今回は、2021年12月に
シリア難民の多く住む
トルコ南部の街を
訪問したときの様子を
ご紹介させていただきます。

●自分の目でちゃんと確かめたい

私はコンサル出身で、現在は米国LAで会社経営に従事しています。その経験を活かすべく、トルコ事業の補習校とシリア事業のSAKURA幼稚園の事業運営に携わっています。どの業界でも、マネジメントチームには現場の声が届かず、本当に必要な決断ができなかったりするケースが多いので、私は現場に入りみんなと同じ目線で物事や課題を把握することを心がけています。日本の皆さんから大切な寄付金をお預かりする身であり、子ども達の将来に大きく影響する教育という部分に携わる以上、中途半端ではいけないと思い、「トルコに行ってきます」と手を挙げました。「事件は会議室で起きてるんじゃない！現場で起きてるんだ!!」と青島刑事事も叫んでいましたよね。

●トルコ語、アラビア語、英語、そして日本語

補習校では、シリア難民の子供たちがトルコの地元の学校に通えるようトルコ語の授業をしたり、将来シリアに帰っても生活できるようにアラビア語のクラスがあったり、仕事や生活の選択肢を広げるための英語のクラスがあります。そして私が訪問したときは頑張ってくれた日本語を披露してくれました。一つの教室の中でいろんな言語が飛び交い、友達に教える様子は今後の世界のあるべき姿の縮図にも思えました。

●シリア人としての誇り

日系NPOでの職務経験もあるシリア人女性ハウラさんのご自宅にもお招きいただきました。玄関のドアを開くとご家族みんなで迎えて入れてくれ、おいしいシリア料理やデザートの数々を振る舞っていただきました。ただ、コロナ禍もあり難民の方の雇用状況は厳しく、生活が決して裕福でないと同っていたため、こんなにおもてなしを受けていいものかと躊躇ってしまったのですが、ハウラさんは優しくこう言ってくれました。「シリア人にとって、ゲストにおもてなしをするのは文化であり誇り。状況が変わっても大切な人をおもてなしする心は忘れたくないの。だから、遠慮をしないで。」

最終日には「Shihoは私たちの家族の一員だからね」といってみんなでシリアンコーヒーを囲みました。祖国を追われ厳しい環境の中、誇りを失うことなく気丈に生き抜く姿に、「支援するなんて偉そうな気持ちで来たけど、勇気をもらっているのは私じゃないか」と強く心を揺さぶられました。

今回の訪問を経て、我々が目指すべきは「思い込みによる一方的な支援」ではなく、「寄り添い、同じ目線に立ったサポート」だということを改めて実感しました。これからもスタッフ一同、現地の子供たちや家族、そして支援してくださる方の声に耳を傾けながら活動に取り組んで参りたいと思います。



【限定公開動画】
トルコに住むシリアの子ども達が
描く将来の夢

プロボノスタッフShihoの
トルコ訪問

